

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

就業力育成 3D 教育プロジェクト

<http://3dep.hosei.ac.jp/>

就業力育成3D教育プロジェクト

大学の役割は基礎体力づくり

教授 藤村博之（ふじむら ひろゆき） プロジェクトリーダー



略歴

84年名古屋大学大学院卒

京都大学博士（経済学）。

84～89年京都大学経済研究所
助手、90～97年滋賀大学経済
学部助教授・教授。97年～03年法政大学経営学部
教授、04年～IM研究科教授。

e-mail:

fhcdc@hosei.ac.jp

研究室は新一口坂校舎4F

新しい年度に入り、多くの大学で新たな取り組みが始まっていると思います。本学でも、「就業力育成3D 教育プロジェクト」と銘打って、昨年度までの取組を継続することになりました。これからも、学生の「はたらくチカラ」を高めるために新しい試みに挑戦しようと考えています。引き続き、よろしくお願い致します。

キャリア教育が企業側に理解されていない

ここ3年ほど、あるNPO法人の主催で、企業の人材育成担当者と大学のキャリアセンター職員、計20名が集まって、20歳代の育成をどうするかという議論をしています。その最初の頃に、両者の認識差を感じさせるようなことが起こりました。企業側メンバーから「キャリア教育って何ですか？」という質問が出されたのです。「そもそもキャリア教育とは何か」という問いではなく、「どうして大学はキャリア教育をしているのですか？」という素朴な疑問でした。

この質問が出されたとき、大学側のメンバーは、一瞬言葉を失いました。「だって、企業側がキャリア教育が必要だというので、大学はここ15年間、取り組んできたんじゃないですか。どうして、いまさらそんな質問をするんですか？」

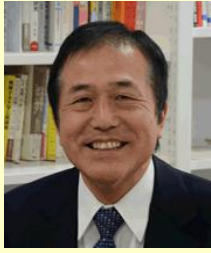
学校教育におけるキャリア教育の必要性は、中央教育審議会でも議論され、小、中、高、大それぞれのレベルで、職業観の育成につながる教育が行われてきました。大学でもさまざまなプログラムが用意され、学生の職業観を高めようとしてきています。それが企業側に伝わっていないことが判明しました。

大学側メンバーが、「キャリア教育の中でこのような取り組みをしています」という説明をすると、企業側メンバーは感心して聴き入っていた。「そこまでいいいにやっておられるのですか。初めて知りました。」というのが企業側メンバーの偽らざる感想でした。

企業と大学の結びつきは、この15年間で確かに深くなっています。各大学が就職部をキャリアセンターに改組し、学生の職業観育成のために数多くの企画を展開してきました。それは、企業側の要請に応じて、社会の中で活躍できる人材の育成をめざしたものでした。しかし、教育の内容が企業側に正しく理解されているかという点、必ずしもそうではなかったようです。

それぞれが役割を果たす

20歳代の育成という観点から大学教育を見ると、大学の役割は、45年間続く学生の職業人生の基礎体力づくりだと思います。基礎鍛錬ができていないと、ケガをしたり応用力が身につかなかったりします。他方、企業の役割は、基礎体力を強化しつつ実践力を身につけさせることです。両者がそれぞれの役割を果たすことが、わが国の若年層育成には不可欠です。学生の基礎体力づくりには、大学が得意としてきたアカデミックな手法が効果的です。そもそもなぜこうなっているのかをとことん考えさせることが基礎体力の強化につながります。小手先のノウハウを教えることは大学の役割ではありません。大学は自らの役割を見極め、それに真摯に取り組むことがますます求められていると思います。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。
70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。
11年~法政大学教員

拡げる！

特任教員 有田 五郎（ありた ごろう）

新年度を迎えたこの時期に、誰もが「拡げる」という意識を持って更なる挑戦を！大人は自らの道を見直して、この一年の新たな目標を定めて動き出す時だ。大学で進級した学生たちには今まで経験していない活動に取組むことで自分の可能性を拡げて欲しい。そして新入生は出来るだけ人の輪を拡げよう。

一人では淋しい、3人以上だとその中での自分の立ち位置に迷う。だから一人の仲良しを確保して、その人とだけ一緒に行動しがちだ。是非勇気を持って組織での活動に飛び込もう。部活・サークル・アルバイト先の仲間と、チャンスはいくらでもある。そういう挑戦に臆病な学生たちはキャリア科目でのグループワークでいろいろな人と話す。自分とは異なる考え方・価値観と積極的に接して、自分で自分を拡げる努力を！



略歴：日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

キャリア教育の定義再考

特任教員 鈴木 美伸（すずき よしのぶ）

文科省の補助金事業で得られた知見を更に展開する新年度になりました。心新たに「キャリア教育とは何か？」と再考してみました。いろいろな定義が言われておりますが、大学生にもわかりやすいものと考え、以下の3点に行き着きました。

1. 生徒から学生へ導くもの ⇒高校と大学の学びの違いを理解させ鍛える
2. 大学と社会をつなぐもの ⇒大学で学んだ知見を社会に応用・実践させる
3. 学問を統合して理解するもの⇒複数の学問に通底する知見を発見させる

これらは社会人として働くという視点ではなく、大学生として学ぶためのキャリアであり、それらを社会で活かすという視点です。経産省や企業から言われる「社会人基礎力」という言葉からは、「大学の勉強など役に立たない」というニュアンスを感じていました。しかし、キャリアは働く社会人のものだけではなく、大学には大学生のキャリアがあり、それは鍛え方や応用の仕方によって立派に社会で通用すると思うのです。

9月に「桜」を咲かせます？

教育支援課長 平山 喜雄（ひらやま よしお）



法政大学法学部法律学科卒。
学務部教育支援課長

4月です。桜の花とともにキャンパスに学生が戻ってきました。先月の編集後記でも書きましたが、日本では桜とともに新生活が始まります。つまり4月入学ですが、大学も「グローバル化」の波を受け、東大を始め「国際標準」の秋入学への移行が検討されました。結局、東大は見送りになりましたが、依然として秋入学への期待は大きいです。そこでちょっと世界の入学時期を調べると、確かに欧米や中国は9月入学ですが、お隣の韓国は3月、インドネシアは日本と同じ4月、タイは5月、フィリピンは6月、南半球のオーストラリア、ニュージーランドは1月～2月と特にアジアは秋入学とは限りません。それぞれお国の事情で違うようですね。そう言えば日本も明治時代に西洋の教育が導入されると高等教育では西洋にならって9月入学だったらいいです。その後、国の会計年度や軍の関係やらで4月になりました。日本独特の文化「桜＝入学」も実は「お国の事情」だったのでですね。ということは文科省も9月入学を推進したいなら大学の尻を叩くより財務省や経産省を説得したほうが早いかもしれません。いずれにしても入学時期などに関係なく自分の進む道を切り拓ける人が「グローバル人材」なのではないでしょうか。とは言え、やっぱり「桜＝入学」じゃないとイヤと言う人へ・・・「サクラは実は秋咲きだった!？」って説がありました。もし9月入学になったら9月に咲く「桜」が開発されるかも。そうすると「秋桜」の立場が微妙ですが・・・

◆ 法政大学×フジテレビ「メディアリテラシー実習講座」を実施しました

このたび法政大学では、フジテレビと協力して「メディアリテラシー実習講座」を実施しました。この講座は、フジテレビで実際に番組制作に携わっているスタッフの方々からメディアの役割や取材方法、撮影機材の扱い方などを直接学びながら、学生が自分たちで番組制作を行うことを通じて、メディアリテラシーを高めようというものです。番組内容は、法政大学と所縁の深いフランスを切り口とした取材や、法政大学の最寄り駅対決など、学生目線のおもしろい内容となっております。ぜひ学生たちの作品をご覧ください。http://3dep.hosei.ac.jp/

◆ 編集後記：4月だと言うのに雪が降りました。東京で4月に雪が降ったのは5年ぶり、今回で9回目らしいです。意外に降ってますね。4月の雪は終雪や忘れ雪、そしてなごり雪と言うそうです。親元を離れて「なごり雪」を聞きながら東京に出てきた世代には感慨深いですが、今や親元率7割だそうです。《事務局：平山》

法政大学 就業力育成 3D 教育プロジェクト（事務局：学務部教育支援課）

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9520 WEB:http://3dep.hosei.ac.jp/

就業力育成3D教育プロジェクト